

第 5 学年 社会科学習指導案

- 1 単元名 わたしたちの生活と工業生産「自動車をつくる工業」(東京書籍「新しい社会 5 年下」pp. 10-25)

2 単元について

- 本単元では、新学習指導要領第 5 学年の内容 (3) 「我が国の工業生産の概要や工業生産に関わる人々の工夫や努力、貿易や運輸」に関する内容を取り扱う。この中では、我が国の工業生産について学習問題を追究・解決する活動を通して、「我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること」、「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること」をねらっている。これからの自動車工業生産は世界各国の動向や、環境への配慮、安全性の充実等様々な側面を考え進めていかなければならないことを理解し、これからの日本の自動車づくりの進め方を表現することは、グローバル化する国際社会において、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を培う上で価値のあることだと考える。

- 図 1 は本学級児童の社会科に関する意識調査の結果である。

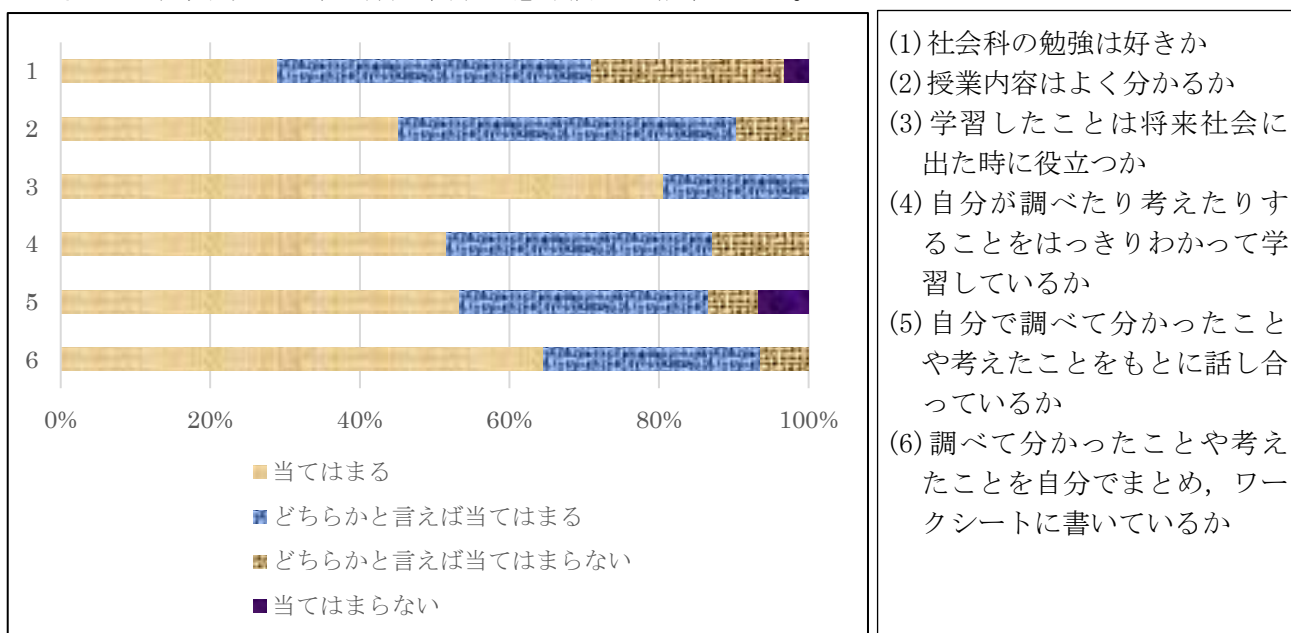


図 1 意識調査の結果

本学級では、質問項目 (1) の結果より、社会科の授業に関して好意を持ち学習に取り組んでいる児童は 76% いる。また項目 (3) の結果より、学習した内容が将来役に立つと考えている児童が 81% いることから、社会科を学習する意義については理解して学習に取り組んでいるといえる。1 学期には単元の導入で身近な事象から問題提起を行ったり、児童の気付きや疑問から調べ学習を行ったりしたことで、1 つの事象から多くの疑問を持ったり、それを追究するために積極的に資料を集めたりする姿が見られ、主体的に学んでいる児童が増えた。一方で項目 (4) (5) の結果より、課題を解決するために自分が何を調べる必要があるのか見通しを持ったり、調べて分かったことを自分の考えとして話し合いの場で述べたりする対話的な学びができていない児童が多い。話し合い活動の中でも、複数の立場に立って考えたり、根拠を指示しながら説明したりすることのできる児童は 3 人とどまっている。

本単元の授業に関するアンケートを実施したところ、生活の中で自動車に乗ることがある児童は100%であった。利用目的の内訳（複数回答可）は、「買い物」が16人、「習い事の送迎」が12人「旅行等の娯楽」が26人となっており、利用頻度もほぼ毎日が27人、週に1回程度が1人という結果になった。自動車がないと生活に困ると考えている児童は100%だったことから、児童にとって自動車は身近なもので必需品であるといえる。しかし、自動車をつくる作業工程のことを大まかにでも知っている児童は2人、自動車工業が盛んな地域についても解答できた児童は4人と極端に少なく、自動車工業自体は身近なものであるとはいえない。一方で、環境のことを考えてつくられている自動車があることを知っている児童は26人、また、自分が自動車を選ぶポイントとして子どもたちから上がった意見が「デザイン」「乗りやすさ」「大きさ」「燃費」「環境への配慮」「安全性」「機能」「価格」と様々あったことから、これからの自動車工業については考える材料が出やすいようだ。

- 指導に当たっては、児童の主體的な学びを促すために、疑問を引き出して学習問題を設定し、学習計画に沿って、調べ学習を行わせる。調べ学習においては、調べた具体的な事実相互の関連性が分かるように、調べた事実を分類したり、整理したりして自分の考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、対話的な学びへとつなげるために、「調査カード（分かったこと、疑問に思ったこと、調べたいことを記入）」「予想カード（調査カードに対する答えを自分で予想してメモする）」「報告カード（実際に調べて分かったことを記入）」を活用させ、思考の整理をさせながら話し合いをさせる。自分の考えの根拠となる資料を示しながら話すことができるように、単元の初めの段階では、ワークシートの中に理由を書き入れるスペースをつくったり、理由につながりそうな資料を入れたりする。また、話し合いを通して深い学びへとつなげるために、全体の話し合いに移る前に、グループでの話し合いの場を設ける。グループでの話し合いでは、個人では考えを持つことができなかった児童も考えを持つことができるように、調べたり考えたりしたことを伝えさせる。グループや全体の話し合いの際には、考えの変容を自覚することができるように、どのようにしてそのような考えに至ったのかを話すように伝える。また、話し合いを通して自分の考えを深めることができるように、話し合う際の視点や話し合う目的を明確にしておく。

3 単元の目標

自動車工業の生産の様子や社会の情勢について調べ、生産の工夫やこれからの自動車づくりについて考えさせることを通して、消費者のニーズや社会の情勢に合わせ、効率よく自動車が生産される理由について考え、働く人々の工夫や関連工場との協力が工業生産を支えていることについて理解することができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての知 識・理解【知】
○我が国の自動車工業の様子に関心を持って意欲的に調べている。 ○働く人々の工夫や努力によって国民生活を支える自動車工業の役割や発展について考えようとしている。	○日本の自動車づくりについて、学習問題や学習計画を考え、表現している。 ○これからの日本の自動車づくりについて、自動車生産の工夫や社会的な問題とを関連付けて考え、適切に表現している。	○学習問題を解決するために必要な資料を集めている。 ○各種統計資料や写真などから必要な情報を読み取っている。 ○各種統計資料や写真などから読み取ったことをまとめている。	○自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応していることを理解している。 ○自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。

5 単元計画 (全11時間 本時 9/11)

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○日本の自動車について考える。 ○学習問題Ⅰを設定する。	○保護者アンケートや日常生活の経験を基に、自動車と生活との関わりや、世界での日本の自動車の信頼性の高さに気付かせる。	・我が国の自動車工業の様子に関心を持って意欲的に調べている。【関】 ・日本の自動車の信頼性の高さについて、その理由を調べるための学習問題を考え、表現している。【思】	1
	○自動車が生産されている地域について知る。	○自動車普及率のグラフや愛知県豊田市の工業マップ、工業総生産の内訳グラフを基に、自動車工業が盛んな地域について調べさせる。	・愛知県豊田市とその周辺でたくさんの自動車が生産されていることに気付いている。【技】	1
	なぜ日本の自動車は世界中で人気があるのか調べよう。(学習問題Ⅰ)			
	○自分で調べたいことや調べる方法を考え、学習の計画を立てる。	○前時までにした気づきを手掛かりに考えさせる。 ○調べることを考えることができるように、学習問題に対する答えを予想するように促す。 ○調べ方を考える際の手掛かりになるように、予想を分類していく。	・日本の自動車が世界で売れている理由を考えたり予想したりする活動から、学習計画を考え表現している。【思】	1
調べる	○組み立て工場ではどのように自動車を生産しているのか調べる。	○生産工程だけでなく、働く人の工夫や努力に目を向けることができるように、発問をする。 ○自動車の生産について理解を深めることができるように、工夫や努力は何のために行われているのか考えさせる。	・自動車の生産工程や生産に携わる人々の工夫や努力について資料を活用して情報収集し、読み取っている。【技】 ・自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応していることを理解している。【知】	1
	○部品工場ではどのように部品を生産しているのか調べる。	○生産工程だけでなく、働く人の工夫や努力に目を向けることができるように、各工程の目的を問う。 ○自動車の生産について理解を深めることができるように、工夫や努力は何のため	・部品の生産工程や生産に携わる人々の工夫や努力について資料を活用して情報収集し、読み取っている。【技】 ・自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や	1

		に行われているのか問う。	社会の変化に対応していることを理解している。 【知】	
	○完成した自動車はどのようにして世界中の消費者へ届けられるか調べる。	○完成した自動車の輸送の仕組みを考えることができるように、輸送機関相互の関連や販売店の存在に目を向けさせる。 ○現地生産について理解を深めることができるように、現地生産のメリットやデメリットも考えさせる。	・完成した自動車がどのように消費者の元へ届けられるのか、また海外で現地生産がどのように行われているのかを理解している。 【知】	1
	○現在生産されている自動車の「環境への配慮」「安全性」「人への配慮」「デザイン」について個人で調べ整理し、日本の自動車が世界中で人気がある理由をまとめる。 ○学習問題Ⅱを設定する。	○調べ学習を円滑に進めることができるように、事前に用意しておいた並行読書の本やインターネット等を使い調べる時間を取る。 ○調べた事実を整理しやすいように学習カードを配布する。 ○これからの日本の自動車生産について目を向けることができるように、調べていく中で出てきた環境問題や社会情勢の話題を取り上げる。	・各種資料の中から必要な情報を集め、まとめている。 【技】 ・これからの日本の自動車づくりについて学習問題を考え、表現している。 【思】	2
	これから日本の自動車づくりをどのようにしたらよいか考えよう。(学習問題Ⅱ)			
考え・まとめる	○これからの日本の自動車づくりはどのように進めていくべきか考える。	○交通事故や環境問題など社会的な側面からこれからの日本の自動車生産について考えさせる。 ○調べたことを基に、自分の考えは持続可能で実現可能な考えかを吟味させる。 ○説得力のある考えになるように、資料の中から考えの根拠を示すよう促す。 ○考えを明確に伝えることができるように、レポートを書く時の中心となる考えを記述するように伝える。	・交通事故や環境問題、社会の情勢など様々な側面から、これからの日本の自動車工業の発展について考え表現している。 【思】	1 本時 9/11

○話し合ったことを基に、日本の自動車づくりがこれからも持続するようなプランを考え、報告レポートに書く。	○これまでの学習内容を生かして考えることができるように、これまでのワークシートを振り返り、順序立ててレポートにまとめるように伝える。 ○考えるプランが現実に即したものになるように、実現可能かどうかを考えさせる。	・日本の自動車工業が様々な工夫や努力によって発展し、国民生活を支える重要な役割を果たしていることに気づき、自分の考えを分かりやすく表現している。 【思】	1
○報告レポートを交流し合う。	○交流を通して考えを深めることができるように、友達が考えたプランは実現可能なのかどうか考えながら、交流をするように伝える。	・これからの日本の自動車工業の役割や発展について考えようとしている。 【関】	1

6 本時の目標

交通事故や環境問題、社会の情勢など様々な側面から、これからの日本の自動車工業の発展について考え、表現することができるようにする。
(社会的な思考・判断・表現)

7 展開(全11時間 本時 9/11)

学習活動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 本時の課題を確認し、めあてをつかむ。 ・自動車の人や環境に与える影響について考える。 〈学級全体〉	○本時のめあてをつかむことができるように、交通事故や環境問題、世界の流れなど社会的な側面を踏まえた資料を見せ、これから自動車づくりをどのように進めていくべきか、自由な発言を促す。 ○本時の学習に見通しを持つことができるように、自動車づくりについての考えが持続可能で実現可能かどうか、簡単に考えさせる。 ○本時及び次時以降の学習に対して見通しを持つことができるように、本時の最後に次時でレポートを書く際の考えをまとめることを伝える。
本時のめあて これからの日本の自動車づくりはどのように進めていくべきか考えを持とう。	
2 自分の考えを観点別のグラフに順位を付けて表し、理由を書く。 〈個人〉	○考えの変化を可視化することができるように、「環境への配慮」「安全性」「人への配慮」の3つの観点に順位を付ける時間を取る。 ○説得力のある考えになるように、なぜそう考えるのか、その根拠を資料の中から示すよう声掛けをする。
3 グループでこれからの自動車づくりの進め方を話し合う。〈グループ〉	○グループでの話し合いを通して、考えを深めることができるように、学習カードで考えを整理して話すように伝える。 ○お互いの意見がかみ合うように、観点ごとのグラフを見せながら話し合うように伝える。 ○考えの伝え合いに留まらないように、グループでの話し合いの前に、目的を具体的に話しておく。

4 学級全体でこれからの自動車づくりの進め方を話し合う。	○考えを深めることができるように、同じ考えでも根拠として使った資料が異なるところ等、違いを見付けて聞くように声掛けをする。 ○自分の考えと異なる考えとを比較させながら聞かせる。 ○全体の話合いを通して、説得力のある考えに高めていくことができるように、友達が示している根拠が正しいか考えながら聞くように助言する。
〈学級全体〉	○最終的な自分の考えの参考にすることができるように、納得した考えを赤色でワークシートに書き加えるように伝える。 ○最終的な自分の考えの参考にすることができるように、まとめる際のキーワードになる言葉に印を入れさせる。
5 次時のレポートを書く際の材料となるよう、ワークシートに考えをまとめる。 〈個人〉	○話合いを経て自分の考えが変容したことを実感することができるように、観点ごとのグラフにおいて自分の考えを再度チェックするように伝える。 ○学級全体の話合いでチェックしたキーワードを用いて、考えをまとめさせる。【評価】

8 本時の評価

評価規準	交通事故や環境問題，社会の情勢など様々な側面から，これからの日本の自動車工業の発展について考え，表現することができるか。（社会的な思考・判断・表現）		
	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
判断する目安 （判定基準）	交通事故や環境問題，社会の情勢など複数の側面から，これからの日本の自動車づくりの工夫を根拠を明らかにして記述している。	交通事故や環境問題，社会の情勢など，1つの側面から，これからの日本の自動車づくりの工夫を根拠を明らかにして記述している。	（B）に達していない記述
→（B），（C）と判断した児童への支援		→交通事故や環境問題，社会の情勢など，他の側面についても考えるように助言する。	→前時の学習で考えた報告カードの内容をヒントに考えるように助言する。
評価方法	ワークシートの記述		